Macour Time Machine

主筆ヤマケイの マクール タイムマシン

初の2億円ボートレーサー・植木通彦が誕生した瞬間

1996年

第1回OCは野中和夫が制覇

この年より7月20日が「海の日」として、国民の祝日となった。ボートレース業界としては、創設当初より海事思想の普及を進め、レースの有益性を広く周知させることが大きな目標でもあり、この「海の日」の祝日化は悲願でもあった（03年からは7月の第3月曜日）。これを記念して行われた第1回オーシャンカップは住之江で開催され、野中和夫が2コースからインの植木通彦を直まくりで下し、SGコレクションに加えた。

松井繁・上瀧和則がSG初優勝

この年のSGは、前年以上に45歳以上のベテランと20代若手の対抗図式がクッキリ。笹川賞（現：オールスター）で松井繁、全日本選手権（現：ダービー）で上瀧和則が初のSG制覇を遂げている。30代の選手はその間に挟まれて優勝者をひとりも出せなかった。

植木通彦が公営競技界初の2億円選手に！

賞金王決定戦（現：グランプリ）では、45歳以上のベテランが5人優出するも、ただひとりの20代・植木が豪快な〝つけまい〟で快勝、連覇を飾った。その結果、植木は公営競技界初の獲得賞金2億円選手に輝いた。

モンキーターンが連載開始

漫画「モンキーターン」が週刊少年サンデーで連載開始（05年まで）。この漫画が大人気を博し、これを読んでボートレースのファンになった人、あるいは選手を志した若者も多い。

なお、この年の選手表彰（第21回／翌年2月に開催）から、表彰規程が変更され、現在と同じ部門となった。第20回まであった「最優秀選手」及び「最優秀新人選手」、「最高勝率選手」は据え置き。その一方で「最多優勝選手」がなくなり、「最多賞金獲得選手」、「最多勝利選手」、さらに「優秀女子選手」が新設された。その初の優秀女子選手には、山川美由紀が選ばれた。

1996年主な出来事

- ○アトランタオリンピック開催
- ○ポケットモンスター赤・緑（任天堂）やたまごっち（バンダイ）がヒット
- ○コギャルやアムラーがブーム
- ○O157による集団食中毒が多発

【流行語大賞】「自分で自分をほめたい」（有森裕子）、「友愛／排除の論理」（鳩山由紀夫）、「メークドラマ」（長嶋茂雄）

優秀選手表彰

【最優秀選手】	植木通彦
【最優秀新人選手】	石田政吾
【最多賞金獲得選手】	植木通彦
【最高勝率選手】	植木通彦
【最多勝利選手】	松田雅文
【優秀女子選手】	山川美由紀
【特別賞】	野中和夫
【記者大賞】	植木通彦

OCでSGV17とした野中和夫はこの当時のSGグランドスラムを達成

初の２億円レーサーとなった植木通彦はＭＶＰをはじめ４冠に輝く

女子戦人気沸騰! 横西奏恵が女子レーサー史上2人目のSG優出

2006年

2000年代に入って急速に高まったのが、女子戦並びに女子選手への注目だ。公営競技という枠だけでなくあらゆるスポーツ種目の中で、男子とほぼ同条件で戦う競技というアピールも大きかった。そしてその中核となったのが横西奏恵だ。浜名湖・女子王座決定戦（現：レディースチャンピオン）で2度目の優勝を飾ると、その2週間後の平和島・総理大臣杯（現：クラシック）で、女子選手としては寺田千恵以来となる史上2人目のSG優出を果たした。もちろんこの年の優秀女子選手に選ばれ、女子戦線はこの後5年ほど、横西を中心に展開していくことになる。

松井繁が最多獲得賞金・峰竜太が初タイトル

SG戦線では、20代と30歳になりたての選手が続々と初優勝。平和島総理大臣杯（現：クラシック）は中澤和志（29）、浜名湖グランドチャンピオンは坪井康晴（28）、桐生モーターボート記念（現：メモリアル）は中村有裕（26）、福岡・全日本選手権（現：ダービー）は魚谷智之（30）。丸亀チャレンジカップは38歳になっていたが三嶌誠司が地元で初の栄光に輝き、住之江・賞金王シリーズは赤岩善生（30）が手にした。

しかしそうした若手の台頭を横目にしながら、安定した強さを見せ続けたのは松井繁（37）だった。夏の若松オーシャンカップに続き、大一番の賞金王決定戦を圧勝。獲得賞金に加え、年間勝率でもトップを占め、最優秀選手に輝いた。

4月の競艇名人戦（現：マスターズチャンピオン）では、万谷章が豪快にまくって優勝。長きにわたり、岡山の〝一般戦の鬼〟と呼ばれながらタイトルに恵まれなかったが、62歳5か月というGIの最年長初優勝記録を作った。

また最優秀新人には峰竜太が輝いている。3期目にA級へ上がり、A2級は1期で通過し、4期目の初A1級で2回の優勝。年間表彰に名前が登場したのはこの年が初めてだった。

ボート界全体の動きとして、電話投票の利用者が徐々に増加し、増加の一途をたどる。

王者の凄みを見せつけた松井繁

女子レーサーのトップを走り続けた横西奏恵

2006年主な出来事

- ○冬季トリノオリンピック開催
- ○第1回ワールド・ベースボール・クラシックで日本代表が優勝
- ○ワンセグが開始
- ○PlayStation3、Wiiが発売
- ○ニコニコ動画開設
- ○夏の甲子園で斎藤佑樹投手が「ハンカチ王子」と呼ばれる

【流行語大賞】「イナバウアー」（荒川静香）、「品格」（藤原正彦）

優秀選手表彰

【最優秀選手】	松井繁
【最優秀新人選手】	峰竜太
【最多賞金獲得選手】	松井繁
【最高勝率選手】	松井繁
【最多勝利選手】	徳増秀樹
【優秀女子選手】	横西奏恵
【特別賞】	山崎智也
【記者大賞】	松井繁